

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 073	提案機関名 JA全農神奈川県本部
要望問題名 県産稲わらの飼料利用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 コロナ禍やウクライナ情勢により、畜産動物の飼料価格の値上がりと品不足は危機的状況にあるが、今後の改善見込みも読めない事態に陥っている。特に乳用牛の牧草については、全量購入の農家が多い本県では、昨年来綱渡り状態で乗り切っているが、経営状況は非常に厳しい。現状の長期化が見込まれる中、自給飼料増産や購入牧草の代替として、県内で栽培されている水稻収穫後の稲わら利用を推奨したい。 については、稲わらを利用した飼料設計や嗜好性を上げるための添加物、形状、また、収穫にあたり労働量の省力化等の研究を願いたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	国内では、年間93万トン(令和3年)の稲わらが飼料として主に肥育牛に給与されています。飼料として利用されている稲わらのうち76%にあたる70万トンは国産で残りを輸入しています。稲わらの利用は乾燥保存したものが多くを占めますが、保存性、嗜好性、飼料価値の向上技術として、アンモニア処理や尿素処理、サイレージ調製等を行ったものも利用されています。特にアンモニア処理を行ったワラは、牧草に劣らない嗜好性と栄養価があると報告されています。また、乳酸菌製剤を用いて調整した稲わらサイレージは、良質な粗飼料として県内でも利用されています。飼料設計については、酪農家毎の状況に合わせて現地対応します。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考	「稲わらのアンモニア処理による飼料価値の向上技術」東北農業研究(1982) https://www.naro.affrc.go.jp/org/tarc/to-noken/DB/DATA/030/030-115.pdf 「尿素処理によるワラ類の貯蔵性と飼料価値の改善」農研機構 https://www.naro.affrc.go.jp/org/tarc/seika/jyouhou/H05/tnaes93096.html 「稲わらサイレージの多給による高泌乳生産技術の実証」平成27年度、栃木県成果情報 https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/gizyutu/documents/no11.pdf		